

「サステナブル経営」の推進に向けたお取引先との連携

シチズングループでは前中期経営計画の「シチズングローバルプラン 2018」で掲げた「真のグローバル企業」を目指すにあたり、2016年に発行した「シチズン時計 CSR 調達ガイドライン」を、2017年にグループ共通の「CSR 調達ガイドライン」として発行し、グループ全体で統一したCSR調達活動として本格化させ、製品のみならず調達活動を含めた企業責任の認識に基づきお取引先との連携強化に努めています。シチズングループのCSR調達の推進体制は、シチズン時計のCSR担当役員を中心に、CSR室と環境マネジメント室が事務局となりグループ会社に展開を図っています。各グループ会社では、CSR担当部門と購買担当部門が連携してサプライチェーンの情報をまとめ、事務局に報告する体制となっています。

本取り組みの推進活動として、2018年度は、グループ間のCSR調達連絡会を開催し、各社の取り組み状況を共有するとともに、理解と浸透を深めるため、CSR調達の重要性に関する講義やワークショップを実施しました。本連絡会には各事業会社のCSR担当や調達担当、総勢21名が参加し、CSR調達の重要性や最新動向について学びました。

2019年度は、CSR調達の取り組みを更に発展させるために、各事業統括会社において、サプライヤーアンケートを実施します。シチズングループでは、国連グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン（以下、GCNJ）のサプライチェーン分科会に参加しており、「CSR調達入門書ーサプライチェーンへのCSR浸透ー」「CSR調達セルフ・アセスメント・ツール・セット」等、同分科会が発行したサプライチェーンマネジメントやCSR調達に関する専門書の制作に協力してきました。サプライヤーアンケートには、GCNJの「CSR調達セルフ・アセスメント・ツール・セット」を利用します。アンケートの実施に先立ち、各事業の統括会社を中心とした7社において、CSR調達の重要性を確認する目的の勉強会とアンケートに関するガイダンスを実施し、合計108名が参加しました。また有識者による講演会も開催し、本講演会には、購買・調達担当者のみならず、各事業統括会社の社長や役員、経営企画部門など合計99名が参加しました。役員レベルにおけるCSR調達に関する意識向上を通じ、グループ全体で、トップダウンによる環境や社会面に配慮したCSR調達活動の追求・徹底



底を目指します。

シチズングループで、いち早くCSR調達を本格的に導入したシチズン電子では、2010年には、サプライヤーにシチズン電子グループCSR調達ガイドラインを配布しCSR調達の理解を求めました。新規口座開設時にも同様の活動を行っています。又、サプライヤー年次評価においては、CSR調達ガイドラインの内容に沿って、従業員の健康管理や汚職・賄賂等の禁止、責任ある鉱物調達等の項目を中心に、サプライヤーの遵守状況の確認を行っています。また、主要製品であるモバイル機器用のチップLEDや、タクトイルスイッチについては、納品先である電子関連企業各社に対するサプライヤーの立場にもあり、顧客企業のCSR調達活動にも協力してきました。年間25～30件程度のセルフチェックや監査を受けている顧客企業からの要請は、各社の行動規範に則った内容となっており、年々厳しさを増しています。自社のサプライチェーンに対しては、シチズングループCSR調達ガイドラインの展開・浸透活動に継続して注力し、サプライチェーンとともに対応を強化しています。また、製品中の紛争鉱物^{*}の使用状況についても、年間130件程度の問い合わせを受けています。シチズン電子では、過去に実施した調達先における紛争鉱物使用状況の調査結果をもとに、随時、顧客からの要請に対応しています。シチズングループでは、こうしたグループ企業の活動を取り巻く事業環境を鑑み、2019年4月、シチズングループとして紛争鉱物不使用の姿勢を明確にするため、紛争鉱物対応方針を策定しました。

^{*} 紛争鉱物… コンゴ民主共和国及びその隣接諸国等の紛争地域で採掘された鉱物、タンタル、スズ、金及びタングステン等をいう。武装勢力による人権侵害や環境破壊等が問題となっている。